令和元年度 山陰両県共同研究 ダイジェスト版

若者世代の定住に向けた新たな視点 - 移住・定住から次世代環流に向けて-

1. 研究の背景

全国の中山間地域では若者世代の定住が課題

移住・定住施策は多くの自治体で展開されている

今後必要と考えられる視点(仮説)

- ・Uターン・Iターンすべての若者世代が住み続けるための取組・支援が必要
- ・若者世代が中山間地域に入ってくる・戻ってくる流れを継続的なものに するためには次世代環流(今の子どもたちが他出後Uターン)の視点が必要

2. 研究の目的と流れ

目的:若者世代の定住に必要な条件を明らかにする

マクロデータ分析

(1960~2015年)

①長期的にみると 若者世代の 人口移動の特徴は? アンケート調査 (20~44歳)

②中山間地域に住むことを決めた理由は?

③若者世代が住み続けるために必要な条件は?

④子ども時代の地域との関わりや他出時の出身地との関わりは?

アンケート調査(高校生)

意識を持っている?

I~Ⅲのフェーズ毎に ⑤現役高校生は 必要な条件を整理 地域に対して どのような

I. 移住段階

Ⅱ. 定住段階

まとめと提案

Ⅲ. 次世代還流

3. 調査結果

①長期的にみると若者世代の人口移動の特徴は? (報告書 P.5~14)

人口移動の特徴

【1960~2010年の期間】

- ・若い世代の人口移動は景気に 左右されやすい傾向
- ・10代は進学、就職を機に県外へ 他出する傾向

【2010~2015年の期間】

- ・「田園回帰」の流れ (景気に左右されない動き)を確認
- ・10代の県外他出傾向が弱まる傾向



家族形態別にみた転出入の傾向 *島根県のデータ(2013~2018年)

転出:単身の10~20代が多い

転入:家族(子ども連れ)の30代が多い

②中山間地域に住むことを決めた理由は? (報告書 P.20~23)

- ・居住地を決めた理由は一つではなく Uターン・Iターンなど属性で異なる
- ・「職場の近さ、家族と過ごす時間の充実」は共通して 重視されている

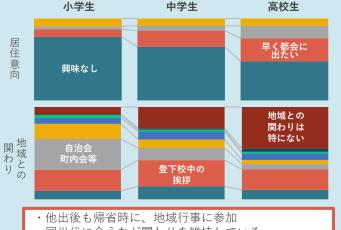
全体(共通) Uターン 1ターン 決めた 自分のふるさと 職場の近さ 自然が豊か 親等が近居 た理点 仕事の斡旋・紹介 同世代の付き合い 家族と過ごす やりたい仕事 地域内の付き合い 由 時間

③住み続けるために必要な条件は? (報告書 P.27~30)

- ・「職場の近さ、家族と過ごす時間の充実」は満足度も高い
- ・一方、「求人情報の充実、習い事や塾・部活動の内容、 生活環境、若者が意見を言いやすいしの満足度は低い

自然の豊かさ・治安の良さ・ 家族と過ごす時間・仕事の内容 高 活満足 全体的に子育て分野の満足度が高い 求人情報、習い事や塾・部活動の充実 度 生活環境(買い物・医療機関の利便性等)、 若者が意見を言いやすい 低 Uターン・Iターンに限らず、継続居住者も満足度は低い

④子ども時代の地域との関わりや他出時の出身地との関わりは? (報告書 P.33~36) ・小学生から高校生に進級するにつれ他出意向高まる ・あわせて地域活動への参加頻度は少なくなる



同世代に会うなど関わりを維持している

の出他 関身出 帰 わ地時 省 りとの

関わりやすい

地域コミュニティ

地域の行事に参加 20.0% 地域住民(同世代)と 伝統行事に参加 25.5% 会う・連絡を取り合う 49.3%

⑤現役高校生は高校時代に過ごした地域に対して どのような意識を持っている? (報告書 P.48~56)

- ・県外へ就職・進学を検討・・6割
- ・高校時代に過ごした地域と 関わりを持ち続けたい・・7割

卒業後の進路の意向は?



卒業後、高校時代に

県外 進学 51.8% 就職 6.0%

進学 22.7% 就職 19.5%

あてはまる 31.9% どちらかといえば あてはまる 43.7% どちらかといえば

あてはまらない 16.6% あてはまらない 7.8%

4.まとめと提案 若い世代の中山間地域への流れを持続的なものにするため、Ⅰ. 移住段階 Ⅱ. 定住段階 Ⅲ. 次世代環流の3つのフェーズで取り組むことが必要(報告書 p.62~67)

I. 移住段階 移住支援に必要な視点は?

"職場の近さ""家族と過ごす時間の充実"の実現がポイント + 属性に合わせた移住促進策の検討が必要

性別、Uターン・Iターン別にみたニーズ			
	男性	女性	
C	共通:自分のふるさと・親等が近居 家族や親戚から情報を得ている		
ターン	職場の近さ 仕事の斡旋・紹介 やりたい仕事	家族と過ごす時間 職場の近さ 相談・世話をしてくれる人 保育園・学校が近い 子育ての補助金の充実	
I タ	共通:自然が豊か・家族と過ごす時間 活用している支援制度の中では 住まい・仕事に関する制度、相談窓口の活用が多い		_
レン	同世代の付き合い 地域内の付き合い	結婚相手のふるさと	

家族構成別の特徴

職場の近さ やりたい仕事 仕事の斡旋・ 紹介 配 偶 家を建てる 土地 あ 住まいや 子育て環境の 充実 同世代や 地域内の 付き合い

Ⅱ 定住段階 定住支援に必要な条件整備は? 若者世代が住み続けるために必要な支援は 「仕事」、「生活環境」、「人・地域」、「子育て」の分野

各分野のポイントは?

医療施設の充実

医療機関へのアクセス

物価の安さ

仕事分野 子育て分野 求人情報の充実 学校以外の教育、部活動 30代の家族 定住後の暮らしの満足度が 教育分野の協力も (子ども連れ) 必要 低い事柄に対応するため 世帯で特に重要 ・中長期的な視点で取組が必要 直ちに対応は困難 ・各分野との連携や地域づくりの 地域づくり分野に 中長期的な視点で おける取組も必要 視点も必要 対応が必要 生活環境分野 人・地域分野 買い物・公共交通機関の利便性 若者世代が

Ⅲ 次世代還流 次世代環流が生じるために必要な視点は? 次世代還流(現在の子ども達が他出後Uターン)に向けて 教育・地域づくり分野との連携や地域と他出者との関係が重要

